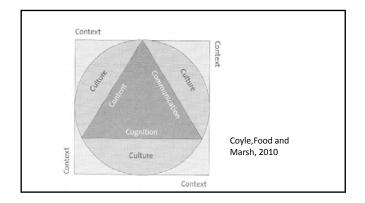
小中でつなぐ言語活動

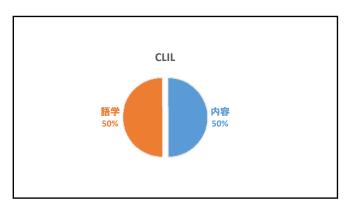
CLIL (内容言語統合型学習)の理論と応用 一日本とフィンランドの小学校での実践から・

> 大阪教育大学 柏木賀津子

実践発表 大阪教育大学大学院生 天王寺M1:中村愛(日本・フィンランド) 森下祐美子/常翔学園高校(日本・オーストラリア) 柏原M2: 樫本洋子 サルバ・ミュシュカ/附属池田小学校ALT(日本)

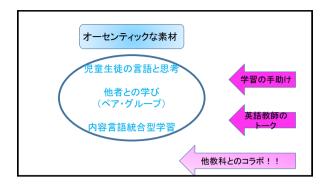


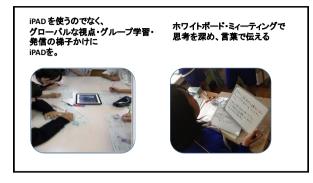




ちょっと体験コーナー CLIL 数で遊ぼう(数学的知能を使う) → How many ? (対人的知能) "Let's find a pig."(視覚・聴覚的知能) Talk&Talk(中1)にもある "The Doorbell Rang" (言語・数学・視覚・聴覚・対人・カテゴリー) ストーリー(Content)で豊かなインプットの中で 「聞く」→「大まかに意味が分かる」→「真似て使う」 「文字や文法の導入は、先生の英語を聞かせ、真似ながら使ったあとが、すっと入る」 「文法は、文のしくみに気づかせつつ、まるごと表現でペアで使い(アイテム学習)、次に構造を視覚的・明示的に説明」 「アイテム学習」→ 言葉へのアンテナを上げさせる機会→文法が知りたくなるように(Focus on form)

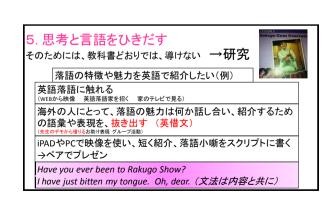












6 CLILの実践 ヨーロッパ アジア

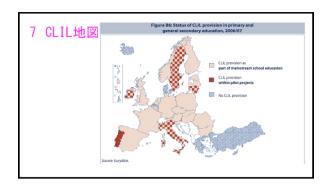
アジアの子供が、英語で算数や理科を学ぶ

ノルウェイの中学生がドイツ語で紙芝居をする
日本の大学生がイタリア語で料理を学ぶ

→語学学習では、欠けてしまいがちな、学習者自身の意欲を引き出す

→学習者自身の発見と高い認知操作を促す

すべて英語(12)というわけでなく、先生はNativeではなく、その国の教師が行うことが多い。話し合いや思考場面では母語も聞こえる。





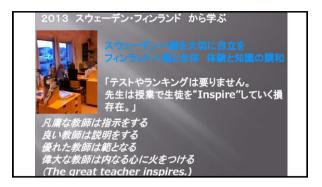








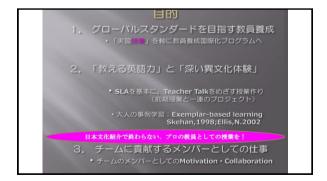
















児童・生徒は、縦割りの授業を、勝手に横に繋がない。 最初に3Dに繋ぐのは教員相互の役割 (小学校は両方が共存) CLILプロジェクトを作る Language Teacher Content Teacher Z:他教科の内容 Content Teacher CLILで変わることとは? ・ 数判特有の表現・語彙に触れる 複数の情報をつないで、接触する 自分の考えを日本語まだいちもつぶやべ場 グルーブやタスケで繰りるコミュケー・コンカ 域数と繋がり、地球の一人であることを感じる 使簡中心 > 生物中の活動が多い 便能自分の専門性を付え、英語力とも直轄 グブローバルを責をめました。 ティーチャー をしっかり! (structured input) ン・Cy。 SEL-Hi イマージョンここに は要注意 CEFER B2は必要 まとまった話を聞く機会を! 絵本からで良い! ⇒ 詳しくは(Kashiwagi&Tomecsek, 2015)

9 CLILの教材のAuthenticity(本物さ)

他教科の内容+英語で授業を発信する→世界への扉を開く

CLILが与える言語面への影響(L2)

・CLILは、伝統的な古い外国語の授業の変革を促す"catalyst"となり得るもの、ま た、どの国の人々も英語による知識を備え得るものと考えられている。

・CLILクラスのほうが受容語彙(聞いて分かる語彙)と、産出語彙(発話できる語 彙)の両方で優る

- 意味にフォーカスしている(focus on meaning)にも関わらず、正確さやライティングカ、形態統語的(morphosyntax)な語彙力において優る
- また、英語カそのものに加えて、学習者が初級者で、表現したい内容の語彙が十分でなくても、意味を伝えようとすることに前向きである。
- ・伝える方法がナラティブであり、CLILクラスでは手続き的な能力が高まり、矛盾点に対してより主体的に解決する傾向がある。
- 外国語学習の適性が高い学習者はEnglishクラスでより習熟度の高いレヴェル に達するが、トップより下の層は、CLILクラスのほうが言語スキルを高める。 (柏木 まとめ)

参考文献

Coyle, D., Hood, P., &Marsh, D. (2010). CLIL:Content and language integrated learning. Cambridge University Press.

Coyle, D. (1999). Theory and planning for effective classrooms: Supporting students in content and language integrated learning contexts' in J. Marsh (ed.) Learning through a foreign language. London: CILT.

Coyle, D. (2005). CLIL: Planning tools for teachers. Nottingham:

University of Nottingham.

Dalton-Puffer, C. (2011). Content and Language Integrated Learning: From practice to principles? Annual review of applied linguistics. Cambridge University Press. 31, 182-204.

Kashiwagi, K., Tomecsek, J. (2015). How CLIL classes exert a positive influence on teaching style in student centered language learning through overseas teacher training in Sweden and Finland. Procedia-Social Behavioral Sciences (in press).

「小学校外国語活動 ~CLIL:他教科の内容を言語活動に生かすコツ~」 大阪教育大学 実践学校教育講座 柏木賀津子

CLIL(クリル)の魅力

小学校外国語活動が始まって3年目、『Hi!Friends』教材の活用やその発展的な授業への取り組みが広まってきています。外国語活動ではまだ英語に触れたばかりなので、難しい語彙や表現を使った内容はできませんし、また、するべきではありません。しかし、多くの担任の先生は、習っている英語は初歩でも、どうにかして小学校5年生や6年生が、心からおもしろいと感じ知的にも興味が持てる内容を教材化できないかと思っておられます。

ここでは、『CLIL: Content and Language Integrated Learning』 (内容言語統合学習)を紹介したいと思います。こ「体育とか図工を英語でやるイマージョン教育みたいなもの?」という印象をもたれるかと思いますが指導法や教材に違いがあります。そこでまず、1)CLILとは? 2)CLILのコツ、3)CLILの実践 4)CLILの可能性 の順でCLILの魅力を紹介します。

1) CLIL とは?

CLIL とは、教科科目などの内容とことば(目標言語)を統合した学習を意味します。笹島(2011)に拠ると、「アジアの子どもが英語で算数や理科を学ぶ、ノルウェイの中学生がドイツ語で紙芝居をする、日本の大学生がイタリア語で料理を学ぶ等は、このアプローチである。CLIL アプローチは、言語学習では欠けてしまいがちになる学習者自身の意欲を引き出す可能性がある。学習者自身の発見と高い認知操作を促すとされ、ヨーロッパ等で広く実践されている。」ということです。筆者は、スペイン、フィンランド、台湾で CLIL の授業を見る機会がありました。そこでは、児童はすぐに外国語(例:英語)を使いこなせないので、英語に耳を傾けながら必要に応じて使い、母語を使うことを最初は禁じるわけではありません。ただ、児童がほぼ「内容に集中している」という状態を創りだしています。どのような内容でも CLIL に適しているかというと、そうではなく、見える教材の"reality"や作り出しがあることが重要なポイントです。教えている教員は、「英語の先生」ではなく「担任や教科の先生」です。寧ろ「担任や教科の先生」のほうが自分の専門性を発揮しておられアイデアが豊富です。

「やっぱり先生が英語を使わないといけないの?」ということになりそうですが、よく耳を傾けてみると英語はそんなに難しいものではありません。台湾のCLIL「ものづくり」の授業では、"Look at this slide." "What tool are you going to use to fix drywall corner?" などという英語が聞こえ、これは小学校外国語活動で使う「クラスルームイングリッシュ」の応用です。フィンランドのCLIL「歴史」の授業では、ヨーロッパ各国の国旗の色や硬貨のデザインから、独立の意義を考えさせていました。もちろん英語力は国ごとで異なります。また、CLIL 授業だけで児童の英語が伸びるのではなく、カリキュラムでは、「英語学習」の柱と「CLIL」は二本立てです。英語表現の基礎となる学びの基盤を持ちながら、「CLIL」で実際に言葉を使い思考する場

面を創出しているのです。CLIL は内容が50%、言語が50%なのです(Coyle et al., 2010)。

2) CLIL のコツ

まず、CLIL は、図 1 のように 4 つの C: Content, Communication, Cognition, Culture(Community)を含むと言われます。



図1 CLILの4C



図2 CLIL の授業作り5つのポイント

言語の学びと思考は、「内容」と切り離せないので、内容を深めるために図2の5つのポイント:1)オーセンティックな素材、2)図版やグラフ・映像、3)思考を深め話し合う場面、4)地球市民としての視野、5)ペアやグループなどの共同学習、を入れることが大切です。全体の授業構成を教師が考え、児童が学習を深められるよう段階的に介入して手助けをしたり、ポートフォリオで児童の学びを見取って修正を加えたりしていきます。教師の介入というのは、先生が英語を使って児童の思考を促すために質問をしたり、やりとりをしたりすることも含みます。思考場面での児童の様子は、「英語を使おう」ということはすっかり忘れて内容に集中しているので、初級のクラスでは母語のつぶやきもあり、それを聞いていると児童が一生懸命考えているということが伝わってきます。教員はこのつぶやきを母語であれ英語(外国語)であれ、しっかり受け止めて児童に関わっていくことが大切です。

3) CLIL の実践

日本での実践例を表 1 にあげてみました。①『Hi! Friends』で、小学校の教員にはおなじみです。②学生が教育実習に向けて実践したものです。外国語活動は「英語を勉強しなくては。」と、児童なりに思っているようですが、CLIL の授業では英語というより、「英語を勉強しているのに、理科や社会のことも学べる。」と目を輝かせて取り組みます。図 3 は、表 1 一③の「地図記号で町めぐり」の写真です。図 4 は、韓国の小学校で実践した「Soap Film: 3 D 立体と表面張

力」です。図5は、オーストリアの小学校で実践した「日本のアニメで起承転結」です(大阪教 育大学提供)







図 3 (日本)

(韓国)

「地図記号で町めぐり」 図4 「Soap Film:表面張力」 図5「日本のアニメで起承転結」 (オーストリア)

表1 CLILの実践例(日本)

題材と主な英語表現	思考と協同の場面	教材
① 「オリジナル T シャツ」	『Hi! Friends 1』Lesson 5 の発展	12 色カラー絵の具
"How are you?" "I am happy."	友達の好きな色や気持ちを表す色	Tシャツ(画用紙)
"What color (shape) do you	を互いに聞きあい、相手の T シャ	気持ちを表す色彩の紹介
like?""I like blue (triangles)."	ツを考えてデザインする(ペアが	町のポスターや店のロゴ
[図工・造形]	学習)。できた作品でどんな気持	など、ポップデザインの
	ちが伝わるか考える。	映像や写真
② 「地図記号で町めぐり」	『Hi! Friends 』Lesson4の発展	町や校区の大地図
"Take me to the post office."	社会で習った地図記号で町のシン	地図帳
"Go straight and turn left.	ボルと位置を学び、英語で道案内	地図記号カード
Here."	する (ペア学習)。外国と日本の	外国の地図記号紹介と
"Let me show you map symbols	地図記号の違いを比較し、町の形	クイズ
in other countries."	状の違いに気づく。自分の町にあ	Google Earth 等から外国
[社会]	うオリジナル地図記号を創って紹	の町の映像
	介する(例:ベンチ記号 動物園記	
	号 コンビニ記号)	

実践のコツは、難しく考えず他教科で担任が既に持っている題材と、児童がまるごと表現で使 えそうな英語を合わせ、思考と協同が必要になる場面を創っていくことです。キーワードはチャ ンツやカードで親しませるとよいでしょう。児童は、最初はまるごと表現の意味がすぐ分かるわ けではありませんが、具体的な場面で何度も聞くので意味が分かり、表現に慣れ親しんでいきま す。ときには、表現の一部を上手く入れ替えていることもあります。しかし、題材選びや教材作 りは手間もかかりますので無理をせず、1年に一つか二つの CLIL を、学年の先生や専科の先生と 共同で作ってみてください。また児童の反応に対して英語でどんなふうに声かけをしていくか (ティーチャートーク)、ALT(外国語指導助手)と協力し表現を書き残していくことで、教師 の英語力を伸ばすことにも繋がります。「教えることは学ぶこと」です。

4) CLIL の可能性

他教科の授業を出来る限り英語で発信していると、おもしろいことに気づきます。CLIL の授業

は、海外から学校訪問に来られた方にも理解ができ興味深いものなのです。通訳がなくてもわかってもらえるのです。そこで、筆者の務める大学では、小学校や中学校教員をめざす学生や現職の院生が、CLILの授業を手作りし、「海外教育実習プロジェク」で海外の児童たちに授業することに取り組んでいます。CLILの授業は海外でも他教科の教員が興味を持って参観されます。図6は、フィンランドの小学校6年生で実践した「Paper Plane:飛行機の揚力を考える」です。授業が生まれるまでには時間も手間もかかり、指導案は全て英語で作成して訪問先小学校に送ります。しかし、このプロジェクトをとおして各教科の専門性を持つ学生はかけがえのないことを学びます。

CLIL の授業への取り組みは、国と国との言葉や文化の壁を越えさせ、児童が授業をとおして何を思考し何をつぶやくか、それに対して教師はどのように介入して支援するか深く予想させます。また、【反応にあわせた臨機応変な対応の難しさ】【教師のひとことが子どもに考えさせ意欲を引き出していること】【英語で授業をするから掴んだ授業の軸】【海外から見つめ直した日本の教育】などに気づく姿があります。筆者は、小学校外国語活動だけでなく英語教育全般に CLIL を積極的に取り入れることで、「日本ならではの授業」を世界に発信し視野を拡げることができると確信しています。

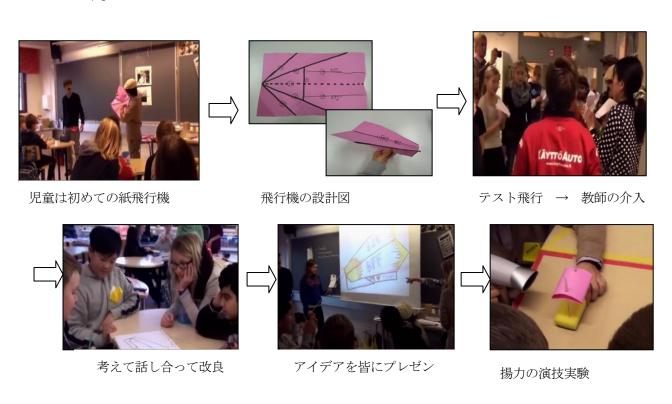


図 6 大阪教育大学海外教育実習 CLIL 理科 Paper Plan (フィンランドにて)

参考文献

Coyle, D., Hood, P., &Marsh, D. (2010). CLIL: Content and language integrated learning.

Cambridge University Press.

笹島茂(編)(2011). 『CLIL 新しい発想の授業:理科や歴史を外国語で教える!?』東京:三修社

イタリアの小学校における CLIL 実践に学ぶ

柏木賀津子(2015 年)大修館『英語教育』第 63 巻 11 号,54-56. 2015 年 1 月 掲載記事より

Silvana Rampone(シルバナ・ランポーネ)先生はイタリアのピネロロ市立ピコロ小学校教諭で、イタリアの文科省英語トレーナーを務め、著書としては『Cross-Curricular Resources for Young Learners』(2008)等がある。2014年8月、小学校英語教育学会・HATO後援のもと来日し、イタリアの小学校の英語教育と内容言語統合型学習(CLIL)の実際を披露し、会場に集まった大勢の教師がCLILに関する明快で体験的なワークショップに魅了された【写真1】。本稿では、イタリアのCLIL実践を伝えに、2020年の小学校外国語活動教科化と関連したCLILの可能性について記す。講演から

1. シルバナ氏の講演と授業から

日本でもお馴染みのお話"We're Going on a Bear Hunt"(Oxenbury,H)から始まり、会場が一瞬に森の中になった。まるでイタリアらしい小さなオペレッタを観ているかのようで、参加者の数人は森の中を Bear Hunt しながら、他の皆は森の中の「草むら」や「ぬかるみ」になりながら、自然に動作が出てくる世界に引き込まれた。その直前のこと、シルバナ氏は「ここはウォームアップと行きましょう」と小さくつぶやいて舞台へ上り、その姿は、EUでのワークショップを牽引し小学校教師たちに「CLILの芯」伝えてきた長年の経験を物語っていた。

ポイント1-CLILの良さ

CLIL は、より高度な言語運用力と自信、より強い動機付け、様々な方法に拠る言語の使用、複雑な情報に対応する力を育てることが可能であるからだ。

ポイント2-英語教授としての CLIL

- ・外国語としての英語教授は、楽しめるものであるべきだ。たとえ子どもでも英語を「使う」人であり、英語を「生み出す」人であるので、CLILの枠組みはこれを可能にする。
- ・高度の理解や発話能力を育てるには 一語一語、 理解することを避け、かたまりで触れさせるべき

であり、CLIL では自然にそれが要素として入る。 ポイント 3-5 つの C と更なる C

内容 (Content)、認知 (Cognition)、コミュニケーション (Communication)、文化 (Culture)、文脈 (Context)、協同 (Cooperation)、創造性 (Creativity)、選択 (Choices)、外界と繋がること (Connections with outside world) がある。

ポイント4—上位思考スキルを育てる CLIL

「なぜか/なぜ・・ではないのか」「どうすればよりよくできるか」を育てるために教師がする発問は上位思考スキルを育てるが、単なる記憶・並び替え・定義づけ・理解チェック等の発問は下位思考スキルを育てているに過ぎない。

・上位思考の発問

「オオカミについて何を知っていますか」「夜には空に何が見えるでしょう」(背景知識を引き出す)、「木とは何でしょう」(ブレーンストーミング)「ピーナッツは種・実・果物・・・どれでしょう。」(カテゴリー概念)【写真2・3】

・下位思考の発問

「指し示しなさい」「組み合わせなさい」「色を塗りなさい」



写真2 (ブレーンストーミング)

	What is it?					
Food	Leaf	Root	Stem	Fruit	Seed	Flower
Broccoli 🐬						
Asparagus						
Carrot						
Cauliflower						
Pepper						
Peanut						
Bean Fig.						

写真3 (野菜のカテゴリー化)

(注)シルバナ氏提供

ポイント5一理解できるインプットを

- ・CLIL では、言語は難易度で段階付けられるものではなく、言葉の機能を重視する。
- ・内容は簡単にしすぎず、言葉は難しすぎないことが大切である (Simplified language not content)。
- ・予備知識の活性化と足場組のための教材が理解 を容易にする。

例:ポスター・実物・映像・録音・フレーム・単語と文リスト・内容の場面わけ・絵や図・グラフ・実験の記録・分類チャート・調査シート・ひな形文(短い文章を書く)

ポイント6-母語の使用

・認知発達のためには、母語と第2言語は同じぐらい重要である。母語は概念的発達を助けるため、ブレーンストーミングでは使用し、必要に応じてコードスウィッチングする。

ポイント7-評価

- ・事前に生徒と話し合い共有された規準に基づい て評価をする。
- ・形式ばらない観察をする(教師・自己・仲間どうし)・
- 生徒のポートフォリオを充実させる。
- ・ルーブリックを作成し、チェックリストと見出しを作る。

インタビューから

Q1一シルバナ先生と CLIL の出会いは?

A-2001年にヴェネチアのカ・フォスカリ大学における CLIL の学位で若年学習者用ケンブリッジ IKT (英語教授知識認定テスト)に出会い、3本の論文を読み、ディビッド・マーシュ氏のワーキング・グループに参加したことがきっかけ。19年の幼児教育経験と、移民の子どもの学習動機付けを良い方向にしたいと思い、クロスカリキュラムに興味を持っていた。あらゆる CLIL のワークショップに参加して「断片」を繋ぎ、本を読んだ。初めて取り組んだトピックは「フード・ピラミッド」で、子どもが良い結果を残してくれた。「もう教科書で教えるだけの指導には戻れない。」と思った。CLIL 授業は何よりも「良いトレーナー」を持つことだとも直感したので自分が学んだ。教師

は、子どもの結果がよければ、教え方を変えようとする。CLIL は授業変革への貢献が大きい。

Q2-Q1での子どもの良い結果とは?

A-CLILでは、複雑な情報どうしを自分でつないでそれらを処理できるようになる。Contentが子どもに近いので、子どもは集中しそこから言葉が出る。グループで行うことが多く、互いの言葉を絡めて繋ぎ、出てくるものがある。例えば、日本の公立小で、「ピザの秘密」の授業をしたが、最初に、イタリアの地図と、イタリアの知っていることを描くことから始めた。子どもは「自分の知っていることから始まる」という経験は少なかったのか、戸惑っていたが、こういう思考プロセスに慣れてくると考えはどんどん出るようになる。

Q3-CLIL での文法はどのように扱うか?

A-子どもは先にチャンク(ひとまとまりの表現)に慣れ、後で文法ルールを見つける。意味がわかることが先にくる。8年生(14歳)で文法を習うが、7年生(13歳)でも、"Discover the rules"を大事にしている。11歳から13歳(中等)は、教え込んでも非常に難しい時期であるのに、イタリアでもその年代の教師の考えはとにかく堅く、導入の仕方からトレーニングが必要だ。また、チャンクから見つけやすい文法は、現在形や現在進行形動詞と目的語の組み合わせ程度で、すぐに難しい構文を使うことを急がないことだ。

Q4—CLILで高次の思考を引き出す際には文字指導は大切になるか?

A - 読み(Reading literacy)と 内容&予想(Content&Predict)は関係する。多くの場合、子どもは意味と絵や単語を結ぶ際に、全部書けなくてもよい。最初から正しく書けるまで指導をするのは間違いで、先頭文字からも、絵や教材からも推測させていく。そのサポートは教師の力に拠る。イタリアでは単語から読み書きを始める。フォニックスは活用するが、子どもには退屈で難しいので、1)6歳からはまず聞いて分かる、2)絵を見せ音韻を感じさせる、3)書かれたフォームを見る、という順番である。8歳では少し集中できる。文脈(Context)から離れたフォニックスでは駄目である。しかし、子どもが作ったものを活用して、子どもに近い Context と一緒なら良い。

Q5—CLIL の「聞いて分かる理解」と、「見つけ

る文法」と、「文字指導」は、互いにカリキュラ ムとして上手くリンクしているか?

A-イタリアでは、よくトレーニングされた教師は その点を考えているが、国のカリキュラムやコー スブックでは完璧なものは出来ていない。相互の タイミングが合うことは重要だが、教えるのは「人」 であるから教師研修にかかっている。この問題は 簡単には解決しない。

Q6-CLIL での英語と母語使用については?

A-EU のある国が、CLIL を全て英語でと、実験的プロジェクトを始めたが、例えば化学の内容を100%英語では、Content が身につけられず、取り組みに失敗の傾向が見られている。母語は第2言語習得にも大切であることを忘れてはいけない。母語使用は、過剰はいけないが、国や地域、学びの段階に適合していくことが大切だ。

Q7-日本では『Hi,Friends!』(指導資料を参照後) が全国に配布されているが CLIL の考え方で発展 させることは可能か?

A- それはやめたほうがよい、『Hi, Friends!』は、トピックベーストで作成されているようだから、そこから作ると中途半端になる。まず、CLILの概念とカリキュラムを根本から把握し、教師が理解し、次に2~3のプログラムを作ってみる。そして、それが適切なものであるかどうか研修の機会を持ち検証していくことが重要だ。

Q8-EU での **CLIL** 授業の連携は、**OECD** の **PISA** 学力の概念とどう関係するか?

A- EUでは、まずフィンランドとスペインで CLIL の導入が始まり。最初は、Thinking skill を育 てようとした。あとから Cognitive Skill が来た。 Key Competency と Language Skill を育てることは、EU のコミュニティに必要な協働と交渉のスキルと直結する。特に、Developing thinking skill は、大切な基礎となる。しかし、CLIL でなくとも、良い教師なら、数学や理科で考えさせることはできる。CLIL がなくても出来るかもしれないが、CLIL はそうでない教師のトレーニングとして有効だ。

Q9-イタリアの公立小学校と英語教育について

A-教室の人数は 30 人程度で、ヨーロッパでは多いほうとなる。英語の指導回数は

6歳(1年生)週1回

7歳(2年生)週2回

8歳(3年生)以上 週3回

イタリアでは CLIL は義務ではなくコースブックにも位置づけられていない。シルバナ氏の小学校では2回の CLIL と普通の英語授業1回を行っている。初等教育終了で、CEFR の A1 レベルが目標設定されている。国は CLIL に反対ではないが、教材や教科書は配布されておらず、CLIL プロジェクトメンバーが WEB に映像と共に掲載し、CLIL 指導者研修を基盤に、教師の創造的な教材作りを行っている。大学機関ではヴェニス大学の小中トレーニングが研修を行うが機会は多くない。

小学校から中学校に進学するための英語テストは存在しない。イタリアには INVALSI という数学と母語(イタリア語)のナショナルテストがある。また、小学校の英語は専科が入って教える環境が今まであったが、政府の予算削減のため、学級担任が教えるように変化するかも知れない。そうなると、英語の指導、とりわけ CLIL には CEFF-B2レベルが最低でも必要なのだが、これが不可能になりかねない。現状では、多くの担任の先生は B1が難しい状況である。国家予算の逼迫の最初のしわ寄せが、義務教育に影響を与えることは何としても避けなければならない。

インタビュー後記

2014年夏の講演では、多くの参加者が「シルバ ナ先生の講演は、CLIL でなくても全ての教師の 心にすとんと落ちるものであった」とコメントを 残した。そして、インタビューをとおして筆者は、 EU においてもイタリアにおいても第2言語を教 え、高次の思考を伴う活動を生み出す授業を創造 するのは、一人の教師が学ぶこと、次にネットワ ークを作ることであると知った。 また、イタリ アの英語教育の課題は日本にも共通するもので、 小学校外国語活動の教科化の示唆として、「子ども に近い内容で引き出す思考」、「何度も聞いて使っ てみて見つける文法」、「文脈と切り離さない文字 指導」「学級担任と専科の協働」等のキーワードを 確認することができた。また、授業変革をもたら す CLIL の触媒 (Catalyst) としての力を再認識 すると共に、日本の子どもに適合した CLIL を創 造していくことは、グローバルな視野を持ち世界 と協働する子どもを育てることに深く関わること だと強く感じた。 (2014年8月インタビュー)

CLIL Taeching Plan (2)

"Science (The Balance of Yajirobe)"

Sweden&Finland

Aiko Okamura Megumi Nakamura

- 1. Grade 5th~6th grade
- 2. Topic Let's find a wonder of Balance of Yajirobe!
- 3. Purpose of the lesson
 - Have students be interested in a wonder of balance and think of how the objects are balanced.
 - Have students understand the center of gravity of objects in their every life and how to find it using some balance toys in both Japan (such as *Yajirobe*) and their countries.
 - · Have students discuss and express their opinions to each other.

4. Language Materials

Main Words	Main Sentences	
Shape, Weight, The center of gravity,	-I think \sim , because \sim .	
Disproportion, Support, Fall down, Fall,	-My group can make \sim , and I found \sim .	
Imbalance, Right and left, The front and	-Find how the objects are balanced.	
the rear, Under, Center, Whole,		

5. Content

.Time	Student's Activities	Teacher's Instructions	Tools
5min	1. Have students be interested in a		
	wonder of balance.		
	●Self-introduction & observe the	○Introduce teacher's name.	/A can
	magic.	OHave students be interested	Balance toys
	1.Self introduction	in a magic and a wonder of	(Japan)
	-See the magic using balance toy.	balance.	
	2. Compare Japanese balance		
	toys with the ones in students'	OHave students find the	
	country (Sweden or Finland)	differences between	
		Japanese and their own	
	授業実践(F-6)	country's toy.	
10min	−資料1−		Worksheet for
	重心についての基礎知識		quizzes

	2. Notice that each object has the	○Hand out the worksheets.	
	center of gravity.	-Have students confirm which	
	•Answer the quizzes of "What	shape can keep the balance	
	shapes are balanced?" among the	using toys.	Word Cards
	pictures shown.		
10min	-Children can raise their hands		
	any time to put questions.		Mission Cards
	-Find answers observing the		Ingredients
15min	demonstration using handmade		Worksheet
	toys.		
	3. Learn about new words for this	○Explain the quizzes through	
	lesson using word cards.	teaching new words.	
		○Give missions written on	
	4. Make groups of four and try to do	Christmas cards to each	Give some
	their duty for each given mission.	group.	ingredients to
		-Hand out	find the balance
		ingredients(materials) after	
		giving mission cards.	
	(A)	-Including complicated	
		pictures in mission cards.	
		-Give a time for writing their	
	(B)	predict on the worksheet	
	AND DESCRIPTION OF THE PARTY OF	-Encourage students to	
		complete their missions	
	-	(experiments).	
	(C)		
		-Praise students' try if the	
	1	group can find the balance.	
		OHave students find how the	
5min	(D)	objects are balanced and	
		deepen their knowledge from a	
		scientific view.	
	8	<u> </u>	

5. Express one's missions to others	OPrepare the ingredients to	
and tell the most difficult point or	make the balance easily.	
the interesting point of what they	○Give children a present to be	
completed the missions.	able to make their own	
6. Review what they learned today.	original toys after the class	
7. Make "Japanese Balance Toy"	(at home).	
using paper and		
Chiyogami(Japanese paper).		
TO ALLEY TO ALL		

To homeroom teachers:

☆We would appreciate if we can use a few clothes to wipe out the water and a water bucket.

Content	Communication	Cognition	Community
· Science	· Discussion about	· Make predictions	• Introduce traditional
	their own predictions	related to experiments.	toys in Japan.
	and why they think		
	like that.		

CLIL 指導案 (例1)

大教育大学大学院教育学科研究科 実践学校教育専攻 M1 中村 愛

- 1. 学年·組 第5学年
- 2. 単元名 「世界がもし 100 人の村だったら」を活用した CLIL 授業 -冷蔵庫から世界を考える-
- 3. 本時の学習目標
 - ●冷蔵庫にあるもの、よく食べるものなど、身近な食べ物の言い方を知る。
 - ●学習した英語を使って、コミュニケーションすることができる。
 - ●5年生社会科で習った"日本の食生活"について思い出し、内容を理解する。
 - ●世界の現状を理解し、自分たちには何ができるのかなど考えることができる。

4. 言語材料

Target words	Target sentences
hungry, happy, sleepy, full, 1~100,	How are you?
apple, banana, strawberry, carrot, rice,	What foods do you like?
fish, etc.	I like∼.
Japan, India,	If the world would 100 people, ~.
	How many~.

5. 本時の展開

	* ドウ () () () () () () () () () (
時間	児童の活動	指導者の活動・Teacher's Talk	指導上の留意点・準
			備物
5 分	1. 自己紹介	○How are you, everyone?	○絵カード
		-Are you hungry?	
		-Are you sleepy?	
	2. 冷蔵庫やお店の絵を見て	○好きな食べ物を学習内容に入れる。	○馴染みのある食
	食べ物の発音を学習する。	○Look at this picture.	べ物や、外来語を
		What foods are there in your	交えるなど分か
		refrigerator?	りやすいように
		単語カードと絵を張り付けていく。	工夫をする。
20分	0 0		○絵カード
		○他国の食べ物を紹介する。	
		学習した食べ物の表現を理解できている	
		か確認する。	

- 3. 世界の子どもたちはどん な物を食べているのか、聞 き取り理解する。
 - "What foods do you usually eat?", "I eat~" の表現を知る。
- 4. 普段食べるものを隣の人 に聞く、伝える。

I eat rice.

I like fish. Etc...

15分 5. 世界を100人の村とし

て、何人の人が私たち日本 人のような食生活をして いるのかをワークシート を用いて比率を知る。

- 6. カードを用いて,同じ国 の人を探しグループを作 る。
- 7. 国によってもらえるドー ナツの数が異なることを 知る。
- 5分8.この活動を通して、考えたことや、自分たちにできることをグループで話し
 - 合い考えを深め、各班のリ
 - ーダーが発表する。

○What foods do you usually eat?の表現 や答え方をゼミ生に協力してもらい見本 を見せる。

教師と全員で練習し、ペアワークをさせ る。

- ○日本の人口と世界の人口を推測し、世界が 100人だったら日本人は何人か考える。
 - -If the world would 100 people, how many Japanese are there?
 - -How many people would be hungry?
 - -What can we do?



○基本となる英語 表現を繰り返し 行い定着させる。

○算数 補助教材

○感じたことや考 えたことを深め るためのグルー プワーク



5. 準備物

- ○冷蔵庫やお店の絵
- ○食べ物とそれに対する単語カード
- ○世界地図
- ○世界の人口と日本の人口の割合を表す図

- ○計算に用いる図・式
- ○ワークシート2枚
- ○数表 100まで

-CLIL と本指導案について-

CLIL O 4 C (Content , Communication, Cognition, Community) の中では、子どもたちが思考する場面 (Cognition) を大切にしたいと考える。

本授業では、初めにいつもの外国語活動で行っている挨拶や冷蔵庫の中の食べ物・フルーツの言い方などから始まった。また 1 から 100 までの言い方を学習した。ここから既習の 5 年生で学習する社会科 "日本の食生活"の内容を取り入れながら CLIL 授業を行った。 4C の Content は、この社会科の内容が当てはまる。また世界がもし 100 人だとしたら日本人は何人になるかの計算を行い、算数科も少し入っている。Communication では、6 種類の挨拶カードを用いて、"Where are you from?" "I'm from~." のやり取りを用いて同じ国カードを持つ友達とグループを作り、グループワークを行った。CLIL 授業で最も重視したCognition では、日本人はどういった食生活をしているのか、海外の人々と比べてどう違うのかなどについて考え、意見を出し合った。ここでは日本語での意見交換だったが、小学 6 年生でも内容に関心を持ち、よく考えている姿が見られた。自分たちが日本じゃない他の国の人々の立場になって行うゲームでは、自分だったらこう考える、など地球市民として考えている様子が見られた。

この授業で最も大切にしたいことは、他国から見た日本の位置や他国から見た世界と日本から見た世界が違うことに気づき、幅広い視野を持つこと、そして他国での出来事を受け止め、自分の考えを出し合うことであった。CLIL授業では教科内容を取り入れることで子どもたちの思考を深めることが出来ると感じた。

Content	Communication	Cognition	Community
・国旗や国名につい	・カードを用いて,	・日本人はどういっ	・地球市民として考
ての学習(社会)	"Where are you	た暮らしをしている	える。
・日本の食生活(社会)	from?" "I'm from~."	か、また世界で起き	
・計算(算数)	のやり取り	ている事実を知り,	
	・自分の考えと相手	自分たちはどうすべ	
	の意見を出し合う	きか思考する。	

CLIL 指導案例

高校生によるオーストラリアでの CLIL 授業実践

大阪教育大学大学院実践学校教育学専攻

M1 森下祐美子

1. 実施日: 2014年8月

2. 対象: 日本の高校2年生の生徒(13人)とオーストラリアの高校2年生と同じ年齢の生徒(10人)

3. 授業内容: 表面張力を使った CLIL の授業実践

4. 授業のねらい:

- ・理科のシャボン膜を使い表面張力の性質の知識を深め理解してもらう事。
- ・表面張力が日本社会の中でどのように使用されているかを考えること。また、オーストラリアでもどのよう な場所で使用されているかを理解すること。
- ・実験をする中で、オーストラリアの生徒に予測してもらう場面で英語を使用してコミュニケーションを取ろうとすること。
- ・準備した指導案での英語を話すだけでなく、オーストラリアの生徒からとっさに質問されても英語で答えよ うとする姿勢を養うこと。
- ・シャボン膜がどのように貼り、性質がどのようなものなのかを考えること。
- ・日本の生徒たちが授業担当者として英語で説明し理解を促すにはどのようにしたらよいかを深く考え理解させること。
- 5. 本時のねらいの単語・センテンス

target words	target sentences	
• surface tention	• Do you think~?	
• funnel	· from~to~.	
• soap film	・S 動詞 the ○○st~. (最上級表現)	

6. 授業の指導案

学習内容と段階	オーストラリアの生徒の学習活	日本の生徒の学習活動・	留意事項
	動	%teacher talk	
導入(5分)		○あいさつ	
		Hello, everyone.	
展開 (40分)		We would like to perform the	実験を行っている後
		soap film experiment.	ろでホワイトボード
		○漏斗の底面にシャボン膜をはる	にも図で説明する。
		とシャボン膜の面はどのように移	
		動するか。	
		What do you think how to move	
		the soap film?	
		○漏斗の底面にシャボン膜を貼	
		り、その漏斗を横に傾けた時、シ	
	移動の仕方を予測して、回答す	ャボン膜はどのように移動する	
	る。	カ・。	
		First, we put the funnel into the	
		soap bubble solution and we	

生徒は日本の生徒に聞きながら、 立方体を作り、シャボン膜のはり かたを予測する。



まとめ (5分) 実際にシャボン液につけてみる。

make the film.

Second, we bend the funnel.

Then, how does the soap film | 全体に見えるように move?

○移動式仕切り棒がある枠にシャ ボン膜を貼り、片面のみ割ったら どのように仕切り棒は移動するの か。

動かす。

○立方体をシャボン液につけたら シャボン膜はどのようにはるの

Do you think how does the soap film make?

○実際にオーストラリアの生徒た ちにモールで立方体を作ってもら い、膜の形を予測してもらう。

○何故、膜がこのように貼るのか を予測させる

Why do you think that the film was made?

○膜の形の理由の答えあわせ

○表面張力が使われている場所な どを説明し、考えさせる

モールを配る。

※teacher talk:日本の生徒がオーストラリアの生徒に対して理科実験授業を英語で行ったので、ここでの、 teacher talk は生徒が話した会話になる。

7. 準備物

- ・漏斗 ・モール ・プラスティック製容器 ・金属製容器 ・中央の仕切り棒が移動可能な金属の枠
- ・シャボン液 ・いろこ ・モールで作成した立方体



8. 授業内での40 と関連した場面

Content	Cognitive	Culture	Communication
1. 理科のシャボン膜を使	1.シャボン膜は面積の違	1. 表面張力は社会の中で	1. オーストラリアの生徒
用した実験の中において、	いによって移動するのか	吊り橋の分野で使用され	に立方体ではどのように
表面張力は面が大きい方	を考える場面。	ることがある。関西には明	表面張力ができるのかを
と小さい方のどちらに引	2.表面張力はどのように	石海峡大橋がある。また、	予測してもらう場面
っ張られる性質があるの	働くのかを考える場面。	北京オリンピック時のス	2. モールで立方体を作る
かを考える場面	3. モールを立方体に作る	タジアムを建設する時、模	場面。
2. フラスコを使用した	場面。	型を作り、表面張力ができ	3. 立方体の作り方を教え
時、傾きを変えるとシャボ	4.シャボン膜は立体的な	る箇所を確認した。表面張	る場面。
ン膜の移動はどのように	ものではいかに膜がはる	力ができるところが安定	4. シャボン液に付けてど
起こるのか(表面張力はど	のかを思考する場面。	する角度なので、同じとこ	のように立方体では面が
のように働くのか) という		ろにスタジアムの設計は	できたかを確認する場面。
場面		できるのかを確認するの	
3. 面を半分で仕切り、両		だ。オーストラリアではあ	
面に張ったシャボン膜の		りますか?と話す場面。	
内片側の面をわると、どの		2. オーストラリアで使用	
ように仕切り棒は移動す		されている表面張力をお	
るのかという場面。		しえてもらう場面	
4. 立方体のつけた時に、			
シャボン膜はどのように			
面に張られるかを予測す			
る場面。			

9. 教師としての関わり

日本の生徒は理科のシャボン膜を使った表面張力の知識がなったため、日本でまず、生徒たちに実験をして生徒たちの知識を増やした。そして、オーストラリアで実験授業をするにあたり、日本語と英語の指導案を生徒自身で作成した。どのような実験内容であったかを思い出させたり、英語の調べ方などを時にはサポートした。オーストラリアの理科実験授業では、オーストラリアの生徒から質問が出て、解答に困った時などはジェスチャーなどをしてどのようにしたら良いかをサポートしたが、基本的には生徒たち自身で協力して英語で話そうと努力をしていた。現在は CLIL の実験をもとに生徒にいかなる影響があったかを研究中である。



<生徒が作成した指導案の一例>

色 ~Colors~

【関連単元(外国語活動と教科内容の関わり)】

外国語活動: Hi, friends! 1: Lesson 2 (I'm happy - 感情)

Lesson 4 & 5 (What do you like? I like ~), Lesson 7 (What's this?)

他教科:図工(創作活動・1~6年次)、理科(天気と気温・5年次)、

社会(世界の人々・6年次)の内容を統合した授業

【単元目標】

- ・色の名前・感情を表す語彙・さまざまな表現に慣れ親しむ。
- ・色について各自が持っている先入観に気付き、他者との違いを知り積極的に受け入れる。
- ・世界には様々な色についての考え方・感じ方がある事を知る。

【単元評価基準】

- ・積極的に新しい語彙・表現に慣れ親しもうとしている。
- ・自分の気持ちを言葉で表現し、友達の気持ちを知ろうとする。
- ・世界には様々な色についての考え方・感じ方がある事を知ろうとする。

【語彙・表現】

- ・色の名前(red, yellow, pink, blue, purple, orange, green, black, white, gray 等) 感情を表す語彙(happy, fine, sad, angry, hungry, sleepy, tired, excited 等)
- · How are you? --- I'm (happy). / What color is this? --- It's (red).
- · What's this?---It's a (). · What color is this/your skin? --- It's (pale orange).
- · What color are you today? --- It's (pink). What color do you like?—I like ().
- How many colors are there/does a rainbow have? --- Seven.

【単元内容】(準備するもの)

1時間目・「肌色ってどんな色?」

(世界のポスト・世界の子どもの画像(本)、People Colors Crayons、世界地図、書画カメラ、ワークシート、絵の具)

2時間目・「虹色ってどんな色?」

(絵本、虹の画像、書画カメラ、ワークシート、世界地図、色えんぴつ)

3時間目・「今日のあなたは何色かな?」

(さまざまな感情を表す画像、ワークシート、色えんぴつ)

4C(4つの基本原理)からの単元

4Cs	1st CLIL lesson	2 nd CLIL lesson	3 rd CLIL lesson			
Content	「肌色ってどんな	「虹色ってどんな色?」	「今日のあなたは何色			
(内容)	色?」	How many colors does	かな?」			
	What color is your skin?	rainbow have?	What color are you?			
	社会(世界の人々)	理科 (天気と気温)	社会・道徳(異文化理			
	図工(創作活動)との	図工(創作活動)との統	解)、図工(創作活動)			
	統合	合	との統合			
Communication	学習の言語	学習の言語	学習の言語			
(言語)	What's this? – It's	How many colors are	What color are you			
	What color is this?	there?	today? I'm (blue).			
	What color is your skin?		How are you? I'm			
	It's (red).		(fine).			
	学習のための言語	学習のための言語	学習のための言語			
	Do you like (blue)?	Solo. Pair. Group.	Who is (happy) ?			
	Yes, I do./ No, I don't.					
	学習を通しての言語	学習を通しての言語	学習を通しての言語			
	I think / guess it's	It means/ They mean	(Pink) means (good).			
Cognition	記憶・理解・応用	理解・応用・分析	理解・応用・評価・分析			
(思考活動)	色の名前を覚え(記	文字列が示すものが何	教師のいう感情と画像			
	憶)、友達の好きな色を	か考える。(分析)	を結び付ける。(理解・			
	推測する。また肌色に	様々な国の虹の色・数を	応用) その日の自分の			
	ついて、一つの色を表	知り (理解)、違いがな	気持ちを色で表すどう			
	すものではないことを	ぜあるのか、考える(分	なるか考え、表す。ま			
	理解し (理解)、自分の	析)。	た色についてもってい			
	肌の色を絵具で再現	英語の意味を想像しな	るイメージが人と違う			
	し、友達と比べてみる。	がら、英語の絵本の読み	ことを知り、受け止め			
	(応用)	聞かせを聞く。(応用)	る。(分析・評価)			
Community	一斉:世界のポストに	文字列の示すものが何	一斉:画像と感情表現			
(協学) /	は赤だけでなくいろい	か、個人→班→全体で推	を組み合わせる。			
Culture	ろな色のものがあるこ	測し、意見を交わす。	個人:当日の自分の気			
(文化・国際理解)	とを知る。	一斉:英語絵本の読み聞	持ちを色で表現する。			
	ペア:お互いの好きな	かせを聞く。	グループ:同じ色のグ			
	色をあてっこする。個	班:様々な国と虹のパタ	ループの人とその日の			
	人:自分の肌色を絵具	ーンを結び付ける。	気持ちを聞きあう。			
	で再現する					

参考文献

Coyle, D., Hood, P., Marsh, D. (2010). *CLIL Content and Language Integrated Learning*, Cambridge: Cambridge University Press.

Kashimoto Hiroko (2014). Colors lesson plan, CLIL Japan Primary,

Retrieved from http://primary.cliljapan.org/resources/lesson-plans/

池田真(2011),「CLIL の原理」 渡部良典・池田真・和泉伸一『CLIL 内容言語統合型学習 上智大学外国語教育の新たなる挑戦」』 東京:上智大学出版.

町田淳子・瀧口優(2010), 『小学校 テーマで学ぶ英語活動 BOOK(1)-(2)』 大阪: 三友社.

Marsh, Maljers and Hartiala, (2001). *Profilig European CLIL Classrooms*, Retrieved from http://lakk.bildung.hessen.de/netzwerk/faecher/bilingual/Magazin/mat_aufsaetze/clilprofiling.pdf

Mehisto, P., Marsh, D., Frigol, J. M. (2008). *Uncovering CLIL Content Language Integrated Learning in Billingual and Multilingual Education*, Oxford: Macmillan.

「音韻認識から文字認識への指導」

- 「音の操作」から「文字の操作」へ一

神戸山手短期大学 村上加代子

1. はじめに

読み書きは、学習の基礎となる力です。とくに単語の読み書きは、読解力や語い力の向上にも関係します。ですが、中学校でも教科書がスラスラ読めない、単語のスペルが覚えられないといった基本のスキルが習得できない生徒が多いようです。英語の習得はなぜこれほど難しいのでしょうか。本ワークショップでは、アメリカの国語教育、そして人口の10%以上ともいわれるディスレクシア(読み書き困難)研究をもとに、日本の英語学習者に育ててほしい読み書きの基礎力一音韻認識—について概説し、異なるレベルの音韻と文字の操作アクティビティをいくつか紹介します。

2. 音韻認識とは

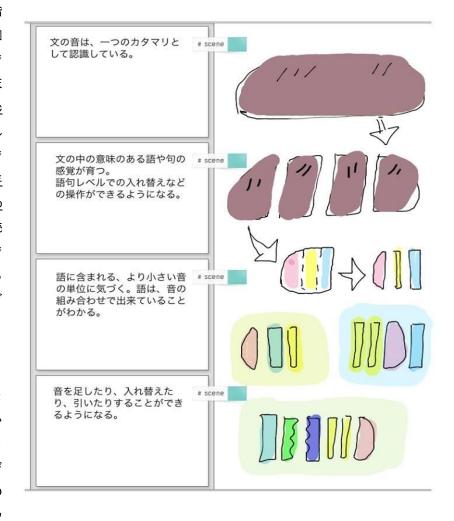
読みの習得のためには、その前提となる認知レベルでのスキルがあります。その1つが、音韻認識 (phonological awareness) です。音韻認識とは、意味とは別にその言語の音を分析し、操作することができる力です (Mattingly, 1972)。音韻認識が十分育っていない児童生徒は、聞くこと自体に問題があるわけではありません。ですが単語に含まれる音を識別したり、分析することが苦手なのです (ワークショップでは音韻操作の具体例を紹介します)。アルファベットを用いる言語の読み書き習得には、この音韻認識のスキルが不可欠だと言われています (Ehri, 2004: Rath, 2001: Troia, 2004)。

大きな単位からより細かな単位へと段階的に発展、獲得していきます。これも個人差がありますが、音節の分解操作ができるようになるのはだいたい 4 才頃(天野, 1970)、英語の音素意識(phonemic awareness)の完成は 9 才ごろだと言われています。日本では小学 2 年生くらいですね。そのためアメリカでは小学校 3 年生までを「読むための学び(Learning to Read)」、4 年生以降を「学びのための読み(Reading to Learn)」とし、低学年では読解とは別に、音から文字、文字から音への接続と流ちょうさのトレーニングを集中的に行っています。

音韻認識の力は幼児期から徐々に発達し、

3. 音韻操作から文字操作へ

音の操作とは、音や文字を足したり、 引いたり、置きかえたりする活動のこと です。音の大きさの単位が大きいものか ら順に細かなものへと操作ができるよう になっていきます。日本語でも、「れいぞ うこ」にどんな動物が何匹いる?などの 言葉遊びをしますね。この場合は「ゾウ



が1匹」なのですが、これは単語に含まれる音節(モーラ)を分解し抽出する活動です。音を単なる1かたまりとしてしか認知できていなければ、この操作はできません。英語でも同じように、さまざまな音の遊びを通じて音韻認識を自然と伸ばすことができます。音と文字とを結びつけることで、文字を見たときに音に置きかえること(decoding)ができるようになります。単語は「視覚的暗記」(まるごと見て覚える)ではなく、文字(音)の操作によって読み、書けるように指導します。フォニックスは文字と音を対応させる指導のことですが、これも理論によりさまざまなアプローチがあり、「どのフォニックスを用いるか」は英語圏で議論が繰り返され、現在では統合的(synthetic)フォニックス、システマティック(systematic)フォニックスの認知が高まっています。フォニックスのスキルを使って単語のデコーディングをするためには、音韻認識のなかでも、音素意識の発達が欠かせないことが指摘されています(Shuele, 2014)。それが、安易に読み書き指導をフォニックスから始めるのが良いとも限らない理由です。

4. 小学校英語活動で育てたい音韻認識スキル

日本で、英語の読み書きに必要な音韻認識を育てるのに小学校は最も適切な時期だと言えます。1回10分~15分程度の帯活動で十分です。まずはライムの感覚を育て、アリタレーションやオンセットーライムの足し算や引き算をゲーム感覚で遊びながら音韻操作に慣れていくことが大切です。活動を通して徐々に"音素意識"を育て、フォニックスで文字と結びつけていきます。「どの時期に、どの段階の活動を取り入れるか」は子どもたちのレディネスに関係しますが、日本ではこの分野の研究はほとんど行われていないため、今後多くの情報を集めながら徐々に発展させていく必要があるでしょう。

(下のスライドはパワーポイント資料の1部です)

英語圏における読み習得の「2段階」

・ステップ1(幼稚園から小学3-4年生) =読むために必要なスキルを獲得する段階

英語を読むために必要な<u>音韻認識の育成</u> <u>音と文字、文字と音とを対応</u>させ、「読み」の基礎力をつける

・ステップ2(小学4年生以上~) =内容、情報獲得のための読み段階

情報の理解、解釈、熟考 など

読み書きが困難になる背景

視覚認知など見る力に関する弱さ

- ・形や大きさ、位置関係を捉えることが難しい
- ・入力に問題があれば出力にも問題
- ・入力に問題がなくて出力だけ問題があれば、「読めるけれ ども書けない」→漢字にあらわれやすい

音韻操作など聞く力に関する弱さ

- ・逐次読み、書くのが大変困難
- ・文字一音の対応習得がとても困難
- 英語圏に圧倒的に多い

「読む」=「音声化する」こと

読みの初期段階は、

「文字」と「音」、「音」と「文字」を結びつけることが もっとも大切。

しかし、個人差がある。

(指導法に工夫が必要 例:多感覚学習法(五感を用いる)

読みの初期段階の目標は・・・・

「視覚的な暗記」に頼った読み方略



音声と文字が結びついた 読み書きができるようにする

2015年2月15日(日)

グローバル人材育成のための一英語教授法ワークショップ一

「小学校におけるモジュールによる授業」

箱﨑雄子 (追手門学院大学)

- 1. はじめに
- 2. モジュールによる授業
- (1) 位置づけ
- (2)長所・短所
- (3) 教材
- (4) 指導法
- 3. 具体的な授業の流れ
- 4. モジュールによる授業におけるチャンツの効果的な活用法
- (1) チャンツ指導の基礎・基本
- (2)活用法
 - Sound Chant
 - ② Vocabulary Chant
 - ③ Structure Chant
 - 4 Function Chant
- (3) Let's chant!
 - ① Sound Chant
 - ② Vocabulary Chant
 - 3 Structure Chant
 - 4 Function Chant
- 5. おわりに

資料1

- ・「モジュールとは時間等の『単位』を意味しており、モジュール学習とは、10分、15分などの時間を単位として、取り組む学習形態である。」(文部科学省ウェブサイトより)
- ・「モジュールでは、聞き取りや発音の練習など、45 分授業(週2コマ)で学んだ表現等を反復により定着させるための活動が適している。」(文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」)

資料 2

小学校5・6年生におけるモジュール授業を用いた時間割の例(イメージ)

·1·1 /X 2	0 1 = (0001) 0		K C 110 0 10: 3123	H1.5111 (1 2	- ,	
	月	火	水	木	金	
モジュール	*	*	*	*	*	
1校時	0	0	0	0	0	
2 校時	0	0	0	0	0	
3校時	0	0	0	0	0	
4校時	0	0	0	0	○外国語 (英語)	
	給食・昼休み	給食・昼休み	給食・昼休み	給食・昼休み	給食・昼休み	
モジュール	※外国語 (英語)	*	※外国語 (英語)	※外国語 (英語)	*	
5 校時	0	0	0	0	0	
6校時	0	○外国語 (英語)		0	0	

^{○:} 各教科等(45分) ※: モジュール(15分)

出典:文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」(2014年12月13日公表)

[・]標準授業時数には含まれないが、児童会活動やクラブ活動について、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとされている。

[・]モジュールでは、聞き取りや発音の練習など、45分授業(週2コマ)で学んだ表現等を反復により定着させるための活動が適している。

平成27年2月15日

グローバル人材育成のための英語教授法ワークショップ 於:大阪教育大学天王寺キャンパス

ワークショップ(5)

音声基軸に基づく文字指導 衣笠 知子 (園田学園女子大学)

0. はじめに

小学校における外国語活動では、英語の音声に慣れ親しみ、英語と日本語の音の違いに 気づいたり、英語はどのような音と音が組み合わされてできているのかに興味を持ったり といった音素認識(Phenemic Awareness)を促すことが大切である。また同時に、ライ ム、うた、絵本などある程度まとまりのある英語に触れる機会を増やすことで、音素とい う音声の最小単位だけでなく、英語の持つリズム、抑揚といった音声的特徴に慣れ親しむ ホール・ランゲッジ(Whole Language)的指導も重要である。

一方、文字指導については、外国語活動は、聞いたり、話したり、といった音声中心の活動であることが重視され、必修化以前は文字には一線が画されていたが、2008年公示の現行の学習指導要領では「音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いること」と文字の扱いにも言及している。教科化に向けて、今後は音声指導のみならず文字指導にも更なる充実が求められることは必至であろうが、文字が音声に先走ることがないように、音声基軸の文字指導を進めたいものである。

本ワークショップでは、音素認識を促す口慣らし練習を活かした文字指導や、ホール・ランゲッジ的音声基軸の指導を文字指導につなぐ方法を紹介したい。

1. 『小学校学習指導要領解説外国語活動編』における音声、文字の扱い

①【第2章1節1目標③】

「児童の柔軟な適応力を生かして、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、聞く力などを育てることが適当である」

②【第2章1節2内容(3)言語と文化に関する事項】

「外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉 の面白さや豊かさに気付くこと」

「日本語のミルク(mi-ru-ku)は3音節であるが、英語のmilkは1音節である。これを 日本語のようなリズムで発音すると、英語に聞こえず、意味も伝わらない。そこで、 実際に英語で歌ったり、チャンツをしたりすることを通して、英語特有のリズムや イントネーションを体得することにより、児童が日本語と英語との音声面等の違い に気付くことになる。また、例えば、brotherという単語を聞いたり、発音したりす ることにより、児童は日本語にない/ \mathbf{r} /や/ δ /の音に触れたり、慣れ親しんだりすることになる...」

③【第2章1節3指導計画の作成と内容の取扱い2(1)イ】

「外国語でのコミュニケーションを体験させる際には、音声面を中心とし、アルファベットなどの文字や単語の取扱いについては、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いること」

- 2. アルファベットの名前音と文字に慣れ親しむ活動
 - ① 前段階について
 - ② アルファベット体操
 - ③ 文字を飛ばして歌ってみよう
 - ④ アルファベット並べ
- 3. 音声指導の基礎
 - ① 音素に慣れ親しむ活動(耳慣らし、口慣らし活動)

A says a, a, alligator.

B says b, b, bag.

C says c, c, candy.

D says d, d, drum.

(衣笠、2002)

Apple, apple, a-a-a.
Baby, baby, b-b-b.
Cookie, cookie, c-c-c.
Dolly, dolly, d-d-d.
(Leeper, 2008)

- ② 4目並べ
- ③ ゴールをめざせ
- ④ 3文字単語にチャレンジ
- 4. ある程度まとまりのある英語に触れ、英語の音声的特徴に慣れ親しむ活動から文字へ
 - ① ライム、うた、うた遊び、チャンツの一例

Pat-a-cake, A Sailor Went to Sea, Who stole the cookies from the cookie jar?

② 絵本の一例 "The Farmer and the Beet" (Addison-Wesley)

引用文献:

Opie, Iona and Peter (1985) The Singing Game, Oxford U.P.

衣笠知子(2002)『Hello English』ひかりのくに

文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説外国語活動編』東洋館出版社

リーパー・すみ子(2008)『アメリカの小学校ではこうやって英語を教えている』径書房

グローバル人材育成のための英語教授法ワークショップ — タイムテーブル —

9:15-10:30	【ミレニアムホール】					
	開会挨拶	大阪教育大学長	栗	林	澄	夫
	HATO プログラム概要紹介	大阪教育大学教授	吉	田	晴	世
		大阪教育大学教授	吉	田	晴	世
	(1) 小 中海横の卒業と伊弥	同 附属池田小学校	宮	本	真	希子
	(1) 小・中連携の意義と実践	同 附属池田中学校	石	끼		剛
		同 附属池田小学校 ALT	サノ	レバ	ミシ	ュカ
10:40-11:25						
		大阪教育大学教授	柏	木	賀河	孝子
	(O) OTT (与党之共从人则监督) o 四头 V 产田	大阪教育大学大学院生	中	村		愛
	(2) CLIL(内容言語統合型学習)の理論と応用		森	下	祐	美子
	―日本とフィンランドの小学校での実践から―		樫	本	洋	子
			サノ	レバ	ミシ	ュカ
	(3) 音韻認識から文字認識への指導	神户山手短期大学准教授	村	上	加	弋子
11:25-12:10						
	(4) 小学校におけるモジュールによる授業	追手門学院大学准教授	箱	﨑	雄	子
	(5) 音声基軸に基づく文字指導	園田学園女子大学准教授	衣	笠	知	子
10.00 11.00	【ミレニアムホール】 TEFL プログラム概要紹介	大阪教育大学教授 奈良教育大学教授		田藤	晴臨	世 太郎
	(6) Pre サービスと In サービスの意義と実践	景良教育入子教技 関西大学第一中・高等学校	•		里	
	(O/Tie y Tene III y Tene Envisor Env	大阪教育大学大学院生	-		生悟	
14:10-14:55	【214詳美安】	人队队 月八十八十几王		70	FB.	
14 - 10 - 14 - 55	【2 4調報主】 (7) 中学生のためのフォニックス指導	大阪教育大学非常勤講師	榆		京	ib.
	(7) 中学生のためのフォーックス指令 【215講義室】	入队教育入于非市勤研训	鄭		<u>* </u>	淑
	(8) 教科書で4技能を伸ばす授業	大阪府立高津高等学校	松	下	信	*
	-生徒の思考を促し、アウトプットを引き出す。 -生徒の思考を促し、アウトプットを引き出す。	Sewerta - navi na 4 a Ne	•	•		
	授業設計一					
14:55-15:40	- 					
	(9) 中学校における授業づくりのポイント	賢明女子学院中・高等学校	稻	岡	章	代.
	【215講義室】	× 1/2 1 1 1/1 1 M 4 1 1/2	7117	- 4		- 1 1
	(10) 高等学校における授業づくりのポイント	神户大学附属中等教育学校	H	ፔ	厚	士
15:50-16:45	-	117 八寸川两十寸秋月寸仅	-11		4	-22
10 - 50 - 10 - 45	【ミレニアムホール】	上町数玄上沙数 楼	dan t	智四	哲	J.
	(11) 山。克油堆の辛華レ宅唯	大阪教育大学教授			₩	也力
	(11) 中・高連携の意義と実践	同附属高等学校天王寺校舎		尾岭	مد	力
	에 스 사 의	同附属天王寺中学校			文	
	閉会挨拶 	大阪教育大学理事・副学長				豊
		2015/2/15	Ok	〈Uワ	ークシ	ノヨッフ